

# 巻頭言

立命館アジア太平洋大学（APU）における言語教育は、グローバル社会を担う人材の育成という大学の使命のもとに、従来の大学における知識重視の言語教育ではなく、社会につながる言語の能力の育成を重視してきました。APU開学から17年、こうした理念のもと、学んだ言語を生かして世界各地で多くの卒業生が活躍しています。

また、大学の正課科目であるAPUの言語教育においては、その使命として、「言語を教育する」のではなく、「言語を通して教育する」という理念を掲げ、文化を読み解く能力や論理的思考力を育てるといった「教育」の側面を重視してきました。

言語教育に対するこのような考え方は言語教育の場に徐々に浸透していますが、外国語教育を専門とするのではなく、大学における必修言語科目という位置づけのなかでのAPUの取り組みは、その規模と、一貫したカリキュラムの確立といった点で、先進的な立場にあるのではないかと思います。

このような新しい言語教育を模索していくなかでAPU言語教育センターは、2005年に創設されました。開学以来、APUにおけるアジア太平洋地域の言語と言語教育に関わる研究の成果を発信する役割を紀要『ポリグロシア』が担ってきましたが、2016年、この『ポリグロシア』を発展的に継承する形で、言語教育センターの新紀要『APU言語研究論叢』が創刊されました。この『APU言語研究論叢』は、新しい言語教育を牽引するものとして、以下の2点を使命としています。

- I 英語・日本語・アジア太平洋言語（中・韓・西・越・尼・泰）といった語種の枠を超え、横断的な「言語」の「教育学（pedagogy）」を確立する
- II 言語教育につながる基礎研究および言語教育の実践を構造化・理論化した実践研究を推進し、その成果を教育に還元し、さらに研究を発展させるという循環により実践と研究の相互作用を促進する

『APU言語研究論叢』第2号は、この言語教育センターの設立に尽力され、設立後は言語教育センター長として長くAPUの言語教育を率いてきた西川孝次教授の退任記念号となります。本号を先生の功績をたたえとともに、残された者たちが先生の理想を引き継ぎ、言語教育の発展に誠心誠意尽くしていく決意の表明として、西川先生にささげたいと思います。

『APU言語研究論叢』編集委員長  
本田 明子